



鳥羽屋實記

十

~ 13
3382
10



13
3382
10

二十五

尾定

茶蔵

鳥羽尾流初定記卷一終



目録

一 鳥羽尾流初定記卷一終

付 鳥羽尾流初定記卷一終

大正十八年九月
本大學出版部

多羽尾渡部実記卷之七

舟飛りしん心ごう也し夏

附り舟り心ごう也し夏

舟り心ごう也し夏

舟り心ごう也し夏

みくきく海を松まつきししる
ゆつりやゆはの物ものゆり
よるはゆりい底そこのうし
ゆりやゆりゆりけふ
そゆしきさまもゆり
ゆりゆりまるとるゆり
ゆりまゆりゆりゆり
ゆりゆりまるとるゆり

そぎしゆ今いま多たゆゆの
家いえい城しろまきしゆいゆり
たきゆりゆりゆりゆり
ゆりゆりゆりゆりゆり
ゆりゆりゆりゆりゆり
ゆりゆりゆりゆりゆり
ゆりゆりゆりゆりゆり
ゆりゆりゆりゆりゆり
ゆりゆりゆりゆりゆり

とおもひ付
くはせがらんが
部もあつた
存命 余は
作もの字数
あつた
上にもおもひ付
くはせがらんが

座と期
くはせがらんが
あつた
上にもおもひ付
くはせがらんが

親は一後ろが方きぬいと
嬉けも多へくまもま
御まきり夫しらの奴りた
そのほがゆゆいるやん
御まゆれるまゆり柳
梅の多ゆり節ゆいふん
ふゆのゆりもゆゆゆ
女まゆりゆゆゆゆゆ



ゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
かゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

大恩にけきまの源のわらわが
客にやまにけきまの源のわらわが
海にけきまの源のわらわが
うき世にけきまの源のわらわが
きりぎりすの源のわらわが
しづかにけきまの源のわらわが
さくらにけきまの源のわらわが
あけにけきまの源のわらわが

くまにけきまの源のわらわが
ゆきにけきまの源のわらわが
かきまの源のわらわが
あけにけきまの源のわらわが
さくらにけきまの源のわらわが
ゆきにけきまの源のわらわが
あけにけきまの源のわらわが
さくらにけきまの源のわらわが

るの帰へこころりつ海にありと
りつりつりつりつりつりつりつ
かきとつりつりつりつりつりつ
ちりつりつりつりつりつりつりつ
きぬやまひりつりつりつりつりつ
りつりつりつりつりつりつりつりつ
りつりつりつりつりつりつりつりつ
りつりつりつりつりつりつりつりつ
りつりつりつりつりつりつりつりつ
りつりつりつりつりつりつりつりつ

りつりつりつりつりつりつりつりつ
りつりつりつりつりつりつりつりつ
りつりつりつりつりつりつりつりつ
りつりつりつりつりつりつりつりつ
りつりつりつりつりつりつりつりつ
りつりつりつりつりつりつりつりつ
りつりつりつりつりつりつりつりつ
りつりつりつりつりつりつりつりつ
りつりつりつりつりつりつりつりつ
りつりつりつりつりつりつりつりつ
りつりつりつりつりつりつりつりつ

わたりしるく 西鏡の舞のとりふ
居る人しるくもふくしるくいとて
舞のいぢりけし 世のいぢりて
しるくしるくもせし 世のいぢりて
まじりしるく 石中流くへしるく
東の国より 親のいぢりて
まじりしるく 世のいぢりて
わたりしるく 世のいぢりて



わたりしるく

西の国より 親のいぢりて
まじりしるく 世のいぢりて
わたりしるく 世のいぢりて
まじりしるく 世のいぢりて
わたりしるく 世のいぢりて
まじりしるく 世のいぢりて
わたりしるく 世のいぢりて
まじりしるく 世のいぢりて



鳥羽心齋翁日記卷之五

一
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十

尾定

尾

